

第 2 1 期 第 2 回 八尾市図書館協議会会議概要

日 時 平成30年12月12日(水)

14時00分～15時30分

場 所 市役所8階 第2委員会室

出席者(敬称略)

松井 純子 (大阪芸術大学教授)
江岡 信行 (八尾市青少年育成連絡協議会)
清水 大輔 (八尾市PTA協議会)
西村 一夫 (元松原市民図書館長)
前川 和子 (元大手前大学教授)
仙田 ひろ子 (大阪府立中央図書館 司書部長)
川窪 和子 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)
稲垣 房子 (元奈良大学教授)
池田 多瑛 (公募市民委員)
喜多村 洋子 (公募市民委員)

欠席者

松井 祥一 (八尾市校長会)
二宮 久子 (八尾市社会教育委員)

事務局

田中 淳二 (生涯学習担当部長)
万代 辰司 (教育総務部次長)
谷 裕之 (八尾図書館長)
松田 勝人 (教育総務部参事)
川端 良昇 (八尾図書館長補佐兼志紀図書館長)
伊藤 均 (山本図書館長)
筒 暁子 (八尾図書館利用サービス係長)
森尾 憲 (八尾図書館資料係長)
松井 浩一 (山本図書館係長)
丸谷 奈緒美 (八尾図書館資料係主査)
小畑 由季 (八尾図書館司書)
竹村 清 (志紀図書館司書)
住本 和美 (龍華図書館長：指定管理者)
岡 告美 (龍華図書館館長補佐：指定管理者)

【 議事概要 】

1 議題

(1) 図書館アンケートの実施について

- 委員：設問8「図書館までの所要時間はどのくらいですか。」について、回答にある5分、10分、15分では大差ないのではないかと。次に、設問14「図書館の事業についてお聞きします。」について、⑥から⑧の表現だけでは、市民にはわかりにくいのではないかと。また、⑬の開館時間延長や、⑩から⑫のホームページに関するものと⑭のインターネットサービスに関するもの違いについて分かり難いので、精査が必要ではないかと。次に、設問15「ご自身のことについてお聞きします。」の③職業について、フルタイム勤務と自営業の違いや家事従事者と無職の違いなどはどう考えるのか。最後に、アンケートの実施方法について、どのような方法で実施するのか。設問1で「7.まったく利用しない」があるので図書館以外での配布となるのか、図書館で配布して実施するのか。
- 事務局：前回、平成27年度に八尾・山本・志紀図書館で実施したアンケートをもとに、時点修正し、見直しを行った。前回は、来館された利用者を対象に配布したが、平成31年度は、利用されていない方にもアンケートを依頼し、どういった図書館なら来館していただけるかなど把握したいと考えている。配布方法については、いくつかの手法もあり、今後検討していきたい。アンケート項目でご意見、ご指摘いただいた内容については、今後、設問の精査、表現の見直し等を行い、協議会の場で改めて確認させていただく。
- 委員：問15などについては、八尾市全体の満足度調査などを実施しているのであれば、整合性を図ればよいのではないかと。
- 事務局：八尾市では、毎年、市民意識調査を実施している。市民意識調査の設問は、60項目を超えるため図書館に関する設問を入れるのは難しい。そのため、各所属において、計画を策定する前にアンケートを実施し、市民の意見を取り入れながら計画策定を行っている。図書館においても委員のご意見を可能な限り、取入れ検討を進めていきたい。
- 委員：設問11「どのようになれば図書館を利用したいと思いますか。」について、「11.電子書籍の対応」だけではわかりにくいと、電子図書館機能の充実にするなど検討をお願いしたい。
- 委員：設問2「最もよく利用する八尾市立図書館はどこですか。」について、設問3以降は、設問2でお答えいただいた内容を踏まえてなどの文言を追加するなど回答しやすい設問の検討をお願いしたい。
- 委員：利用されていない方へのアンケートの実施を検討していただいておりますので、引き続き検討をお願いしたい。設問2と設問3の間に「他にどのような図書館を利用しているか」例えば、学校図書館や大学の図書館の利用などの設問を入れるのもいいのではないかと。
- 委員：八尾市も広域利用を実施しているので、それに関する設問「他市図書館から資料の取り寄せをしたところがあるか」があってもいいのではないかと。また、図書館ボランティアの立場で回答する人もいるかもしれないため、「図書館で何らかの活動したことがあるか」などの設問があってもいいかもしれない。その他にも利用して満足だったのかなどの設問もあってもいい。
- 委員：図書館ボランティアの立場からすると設問3の「8.その他」に記入するものと思っていたため、

項目を追加していただけるとありがたい。

事務局：設問項目が多くなりすぎないように、どのような項目がよいか委員からいただいたご意見、ご指摘を踏まえ、検討を進めていく。

会長：設問10「八尾市の図書館を利用しない理由は何ですか。」について、家族が病気、介護、看護も回答に入れておくべきではないか。また、中学生以上を対象とするなら、明記しておくべきではないか。今後も引き続きアンケート内容についての検討をお願いします。

2 報告

(1) 八尾市子ども読書活動推進計画について

委員：関係課が集まり議論されているとのことだが、どのような所属が参加しているのか。

事務局：八尾図書館、指導課、こども施設課、子育て支援課、青少年課、健康推進課、コミュニティ政策推進課にて議論を進めている。本市では、子どもの読書活動に向けた取り組みを行っているが伝わっていない部分があるので、計画を通じて見える化を図っていきたいと考えている。

委員：前回の計画を見直し、次期計画を策定すると思うが、前回の総括は行うのか。

事務局：前計画の検証を行いながら、次期計画を策定していく。

委員：子どもの読書活動について、ブックスタートは良い取り組みであるが、本を提供しただけでは家庭で読み聞かせをしないのではないか。子どもにとって身近な家庭で読書する習慣を形成するために保護者向けの講座が必要ではないか。また、並行して、学校図書館の充実も大事だと考えている。

事務局：まず、学校図書館については、学校教育部所管であり、八尾図書館は所管外である。本市の現状としては、学習指導要領にも読書活動や学校図書館のことが記載されていることや、学校に司書教諭を配置している

委員：子どもは楽しい、うれしい体験があれば自発的に行動していくと思うので、読書を通じて何か楽しい体験があれば読書活動につながっていくのではないか。そのためにも学校へソフト面での連携を図っていただければありがたい。

委員：学校に公共図書館がどう関わっていくのか。小学校は、学校単位やクラス単位を対象として、連携していけばいいが、中学生については、個々を対象として、取り組んでいくべきではないか。公共図書館が中学生の個人に働きかける取り組みについてどんなことができるのか。

事務局：中高生の利用が少ない公共図書館において、どうすれば図書館に来てもらえるのかを考えないといけない。社会環境として、知りたい情報の多くはスマートフォンにある時代であり、図書館を利用する機会が少なくなっている。中学2年生の職業体験の受け入れやビブリオバトルなどの取り組みを実施し、少しでも本に触れる機会を創出していきたい。すぐに成果を出すのは難しいが、図書館を含め、読書活動を推進し、本の良さ、読書の楽しさを伝えていきたい。

委員：職業体験やビブリオバトルなど個々の能力を高めるという観点を持っていただいているのは、ありがたい。公共図書館は学校と連携して取り組みを進めつつ、公共図書館として、職員間でも様々な意見交換をして、アイデアを出して取り組んでいただきたい。

委員：次期計画策定するには、前計画の検証が必要であり、今後、協議会で議論する際には資料として出していただきたい。

事務局：前回の子ども読書活動推進計画は、平成16年度に策定し、理念的な部分が描かれているものであり、具体的な取り組みについては、毎年策定する実施計画書に基づいて実施している。第2次図書館サービス計画を策定する際には、子どもの読書活動の具体的な取り組みを検討し、計画に位置付け、推進している計画となっている。子ども読書活動推進計画については、第3次図書館サービス計画の中で項立てし、しっかりと議論を進めたいと考えている。

委員：第3次図書館サービス計画と子ども第2次読書活動推進計画の2本を策定するのか。

事務局：計画の名称については、今後検討していくが、図書館サービス計画の内容と子ども読書活動推進計画の内容を検討していくことになる。

委員：八尾市教育振興計画には、図書館に関する記載が1ページしか記載がないので、もう少し図書館を押し出せないのか。

事務局：八尾市教育振興計画は、教育委員会の総合計画であり、その中には生涯学習の1つとして図書館も入る。八尾市教育振興計画においては、基本的な考えを記載し、具体的な取り組みについては、図書館サービス計画に位置付けて取り組んでいる。教育振興計画にどう位置付けていくかの議論については、社会教育委員会議、教育委員会議での議論となることから、今後の図書館のあり方などについて、図書館協議会においてご意見をいただきたい。

会長：子どもの読書活動の対象は0歳から高校生まだと認識しており、家庭・学校・地域での読書活動として、綿密な計画が必要だと認識している。共働きが増えるなど家庭環境が変わってきたこともあり、十分に本を読む時間を確保することが難しくなっている。家庭での時間の確保が難しくなると地域での読み聞かせなどが必要となってくる。各家庭で状況は異なるが、子どもに対して本を読んであげるのが良いことだと広めていくことも必要である。

(2) 平成29年度龍華図書館のモニタリングレポートについて

委員：資料3の公の施設の効用発揮の項目について、評価結果が「B」となっているが、なぜか。

事務局：行政は、計画を立てて進めていくことになるが、貸出点数等の目標設定について前年度より5%UPの目標設定となり、低い目標を設定することは基本しないため、目標値を達成できなかったという側面もある。このモニタリングについては、本市の指定管理者全施設で同じやり方で実施している。

委員：指定管理者の人材育成の項目について、職員は継続して働いているのか。

事務局：開館した初年度については、16人中3、4名退職をした。2年目以降は2人が退職したが、研修を受けスキルアップしたスタッフがしっかり働いてくれている。

委員：報告になるが、大学司書課程を履修していた読書が好きな八尾市出身の方が、龍華図書館が開館したことを喜んでいた。

(3) 図書館の行事について(10月～12月)

委員から意見なし

3 その他

次回の日程については、3月中旬を予定しており、会長と相談の上、決定する。